

IBM Digital Analytics Import ユーザー・ガイド



目次

IBM Digital Analytics Import.....	1
Import の概要.....	1
ソリューション・モジュール.....	1
システム要件.....	2
アクセスと管理.....	2
ユーザー管理.....	2
アプリケーション・アクセス.....	3
データ・インポートの概要.....	3
データのインポート.....	3
インポート・ファイルの検証.....	4
インポート構成の作成.....	4
データ拡張の構成.....	4
予測指標の構成.....	6
訪問者登録フィールドの構成.....	8
インポート・ファイルの作成.....	9
構成テンプレートのダウンロード.....	9
正しいファイル名の形式.....	10
マルチチャネルのインポート・ファイル.....	10
訪問者登録フィールドのインポート・ファイル.....	14
予測指標のインポート・ファイル.....	15
エンタープライズ・プロダクト・レポートのインポート・ファイル.....	15
データ拡張のインポート・ファイル.....	16
カテゴリ定義ファイルのインポート・ファイル.....	17
データ・ファイルのインポート.....	18
処理時間と通知.....	18
データ拡張インポートでの注意.....	18
エンタープライズ・プロダクト・レポート・インポートおよびマルチチャネル・インポートでの注意.....	18
Import の管理.....	19
SFTP アカウントの管理.....	19
過去のインポートの表示.....	19
テンプレートの管理.....	19
追加の連絡先情報.....	20
サポート.....	21
特記事項.....	21
商標.....	23
製品資料に関するご使用条件.....	23
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項.....	24

IBM Digital Analytics Import

IBM® Digital Analytics Import の資料へようこそ。この資料では、Import の構築と使用の方法について記載します。

Import の概要

IBM Digital Analytics Import を使用すると、他のソースから取得したデータと、IBM Digital Analytics のサイト・トラッキング・テクノロジーによって取り込まれた情報をマージできます。

インポートされたデータは、以下のように使用できます。

- IBM Digital Analytics で、より高度な分析を行うために使用
- IBM Digital Analytics Explore で即時分析を作成するために使用
- IBM Digital Recommendations、IBM LIVEmail、および IBM Marketing Center を使用してデプロイする、オンライン・マーケティング・イニシアチブで使用

Import を使用すると、IT 担当者の支援がなくてもデータをインポートできます。

Import を使用すると、以下の状況のような多くのビジネス関連の疑問や課題に対処することができます。

- オンライン・チャネルの外部にあるシステムから取得した顧客プロフィール情報を使用して、訪問者セグメンテーションの高度な即時分析を実施したい。
- Digital Analytics タグを使用して訪問者登録データを収集したいが、新たにタグが付けられたサイトを顧客が訪問するのを待つよりも、既にある顧客データを 1 つのバッチ・インポート・プロセスでアップロードする方が効率が良い。
- 主要サイトの重要業績評価指標 (KPI) を IBM Digital Analytics 内で直接計画するために、より効率的にパフォーマンスを追跡する方法が必要である。
- インポート・データの検証とファイルのアップロードは手間のかかるプロセスで、さまざまなチームにわたる人員との調整が必要となることも多い。
- ページ・ロード時間をインポートして、それらを Digital Analytics Explore レポートで分析したい。

ソリューション・モジュール

ソリューション・モジュールは、IBM Digital Analytics の結果を強化するために使用できる、インポートされるデータ・セットのタイプです。インポート・ソリューション・モジュールは 6 つあります。どのソリューションを使用するのが適切かは、インポートするデータと、そのデータをどのように使用するかによって異なります。

Import では、以下の 6 つのインポート・ソリューション・モジュールがサポートされています。

カテゴリー定義ファイル

カテゴリー定義ファイル (CDF) インポートでは、お客様のサイトのナビゲーションおよびコンテンツ編成階層を明確に示す情報を提供します。この情報は Digital Analytics レポートで使用されます。

データ拡張

データ拡張インポートでは、Digital Analytics データ・モデルを拡張するためのデータ属性を提供します。特定のデータ・フィールドに関連付けられた、またはデータ・オブジェクトの選択リストからの属性フィールドを最大 50 個までインポートできます。ページ・タグを介して渡すことができる 50 個の属性フィールドに加えて、これらの 50 個の属性を使用できます。インポート・データは、Digital Analytics Explore、LIVEmail、Marketing Center、および Lifecycle で使用することができます。

エンタープライズ・プロダクト・レポート

エンタープライズ・プロダクト・レポート (EPR) インポートでは、2 番目のプロダクト階層についての情報を提供します。この階層では、お客様の会社が提供する各アイテムをカテゴリー構造の 1 ノードのみに割り当てることができます。EPR インポート・データは、IBM Digital Analytics および IBM Digital Recommendations 内のエンタープライズ・プロダクト・レポートで直接使用されます。

予測指標

予測指標インポートを使用すると、組織の重要業績評価指標 (KPI) ターゲットに対応する毎日の指標値をインポートできます。毎日の指標値を使用すると、目的のトップ・ライン指標に対する会社の目標に照らして、実際のパフォーマンスを追跡することができます。予測指標値は、トップ・ライン指標レポートの予測比較機能およびアクション・レポート (ARR) の予測ワークシートで使用されます。

訪問者登録フィールド

訪問者登録インポート・ソリューションを使用すると、既存の顧客属性データを Digital Analytics デプロイメントにインポートして訪問者プロフィール・データを拡張できます。このデータは、Digital Analytics Explore で実行される即時分析に使用できます。訪問者登録フィールドのインポート・データは、Digital Analytics では使用できません。これは、Digital Analytics Explore でのみ使用できます。

マルチチャネル

マルチチャネル・インポート・ソリューションを使用して、オフライン・トランザクション・データをインポートします。インポートされたデータは、Digital Analytics タグの実装によって取り込まれたオンライン・トランザクションおよび訪問者行動データとマージできます。マルチチャネル・ソリューションを介してインポートされたオフラインの購入、アプリケーション、または予約のデータを使用すると、有意なクロスチャネル分析を Digital Analytics Explore で実行できます。インポートされたマルチチャネル・データを Digital Analytics Explore で使用する方法については、「IBM Digital Analytics Explore ユーザー・ガイド」を参照してください。

システム要件

IBM Digital Analytics 製品を実行するには、特定のバージョンのソフトウェアとブラウザを実行し、必要最低限のメモリー容量を確保している必要があります。

以下のシステム要件を維持してください。

- ソフトウェア: Adobe Flash Player V10 または V11
- ブラウザー: Microsoft Internet Explorer V9 以降。Mozilla Firefox V29 以降。Chrome V34 以降。
- メモリー: 1 GB 以上の RAM

アクセスと管理

Digital Analytics の「アドミン」を使用すると、Import へのユーザー・グループのアクセス権限を拒否したり付与したりすることができます。

ユーザー管理

デフォルトでは、Import は管理者ユーザー・グループに限り使用可能になっています。Digital Analytics 内でロールを割り当てる権限がある場合は、Digital Analytics の「アドミン」で他のグループに対しても Import を使用可能にできます。

手順

1. メニュー・バーから「アドミン」をクリックします。
2. 「アドミン」サービス・サイトがロードされたら、「グループを管理 - 完全リスト」リンクをクリックします。
3. ユーザー・グループを「作成」または「編集」するかを選択します。
4. 「IBM Digital Analytics Import」チェック・ボックスを選択して、ユーザーに Import アプリケーションへのアクセス権限を付与します。
5. 1 つ以上のインポート・ソリューションを選択します。

タスクの結果

「E メール・キャンペーン指標」インポート・ソリューションのアクセス許可は、Import の下にリストされています。ただし、このソリューションは、Import ではなく IBM LIVEmail から管理されます。詳しくは、「IBM LIVEmail ユーザーガイド」を参照してください。

アプリケーション・アクセス

IBM Digital Analytics Import へは、別の IBM Digital Analytics アプリケーション、または Import のウェルカム・ページからアクセスできます。

別の IBM Digital Analytics アプリケーション内で操作している場合は、ヘッダーにあるアプリケーション・セレクター内で **Import** をクリックして、Import を開きます。

また、Import のウェルカム・ページから Import を開き、そこで認証することもできます。ウェルカム・ページ (<http://import.coremetrics.com>) にアクセスします。

データ・インポートの概要

Import では、SFTP ターゲット、ファイル名、およびファイル構成に対して厳しい要件があります。これらの要件は、インポートの方法にかかわらず適用されます。

データのインポートを開始する前に、データの正常なインポートのための以下の情報を理解しておく必要があります。

- すべてのクライアント ID に、その ID 専用の固有のインポート SFTP ターゲットがあります。使用するインポート・ソリューションに関係なく、すべてのインポート・ファイルはクライアント ID に対応する SFTP ターゲットに送られます。
- それぞれのインポート・ソリューションには、従わなければならないファイルの命名規則があります。
- 各インポート・ソリューションには、ファイルの構造と内容を定義する構成があり、IBM Digital Analytics Import は、インポートされるファイル内にそれらの構造と内容が存在することを予期しています。
- 一部のインポート・ソリューション構成は静的です。その他の種類のインポート・ソリューションには柔軟性があります。

例えば、カテゴリ定義ファイルは特定の構造に準拠する必要があり、お客様が変更できるのはファイル区切り文字のみです。予測指標のインポート・ファイルの構成では、サポートされるどのトップ・ライン指標でも、任意のフィールド順序で組み込むことができます。

- Import は、ユーザーが定義した構成と照合してファイルを検証します。構成と一致するファイルを作成することは、データの正常なインポートのために不可欠です。
- データのインポートは、Import から直接行うか、別のプロセス (反復クローン・ジョブや SFTP クライアント・アップロードなど) を使用して行えます。使用する方法に関わらず、ファイルは同じ検証ルールに照らして処理されます。

データのインポート

テンプレートは、使用している形式が正しいことを確認するために使用します。誤った形式は、エラーをもたらします。一般的なインポートのワークフローは、すべてのインポート・ソリューションで同一です。

このタスクについて

任意のインポートの種類テンプレートを作成します。

手順

1. サイド・ナビゲーション枠で、「管理」 > 「インポート構成」をクリックします。
2. インポートの種類を選択します。
3. このインポートの種類テンプレートを作成するために Import が必要とする情報を指定します。
4. 「保存」をクリックします。
5. テンプレート・ファイルをダウンロードします。
 - a) サイド・ナビゲーション枠で「**Import**」をクリックし、インポートの種類を選択します。
 - b) 「**テンプレート・ファイルをダウンロード**」をクリックして、このインポートの種類形式を使用するファイルをダウンロードします。
6. テンプレート・ファイルを使用して、アップロードしたい情報を含むインポート・ファイルを作成します。ファイルが完成したら、Import に戻り、ファイルをアップロードします。

- a) サイド・ナビゲーション枠で「**Import**」をクリックし、インポートの種類を選択します。
 - b) アップロードするファイルを参照します。
 - c) 「**インポート・ファイルを処理**」をクリックします。
7. 初めてインポートされるデータ拡張属性または訪問者登録属性がファイルに含まれている場合は、それらの新規属性をレポート内で使用するために、それらに別名を付けます。
- a) 「**アドミン**」をクリックします。
 - b) サイド・ナビゲーション枠で、「**Explore の属性**」をクリックします。

インポート・ファイルの検証

Import は、送信しようとするファイルの送信が成功したか失敗したかを示すアラートを含む E メール通知を送信します。

インポートが失敗した場合は、Digital Analytics からファイル検証エラーの詳細が表示されるので、インポート・ファイルを訂正してインポートを再試行できます。ユーザーは、ファイルのインポート時に、連絡先である E メール・アドレスを指定します。

使用するインポート・ソリューションのファイル・フォーマットとデータ型の要件は、すべて理解しておくことが重要です。Import 提供のテンプレート・ファイルをダウンロードして使用すると、各インポート・ソリューション用に指定した構成に確実に一致した構造のインポート・ファイルを作成することができます。

インポート構成の作成

ファイルをインポートする前に、関連付けられたインポート・ソリューションの構成を定義する必要があります。構成では、インポートするファイルで使用する形式と内容が定義されます。

IBM Digital Analytics Import は、2 とおりの方法で構成を使用します。

- ユーザーが正しい構成を使用してファイルを作成できるようにするための、構成に基づくテンプレートを作成します。
- ユーザーがインポートするファイルを、構成と照合して検証します。

一部のインポート・ソリューション (カテゴリー定義ファイル、エンタープライズ・プロダクト・レポート、およびマルチチャネルなど) は、事前指定された、高度に構造化されたファイル・フォーマットです。それらのソリューション用に構成を定義することは、区切り文字を選択することを意味します。

その他のインポート・ソリューション (データ拡張、予測指標、および訪問者登録フィールドなど) では、ユーザーがインポート・ファイルの内容を指定する必要があります。

インポート構成を定義するには、「**管理**」 > 「**インポート構成**」をクリックします。

データ拡張の構成

データ拡張のインポート・ソリューションは、特定のデータ・フィールド、または選択リストのいずれかのデータ・オブジェクトに関連付けられた属性フィールドを、最大 50 個までインポートするために使用します。ページ・タグを介して渡すことができる 50 個の属性フィールドに加えて、これらの 50 個の属性を使用できます。

インポート・データは、Digital Analytics Explore、LIVEmail、Marketing Center、および Lifecycle で使用することができます。

デフォルトでは、クライアント ID ごとに最大 10 個のデータ拡張のインポート・テンプレートと 1,000,000 個の異なるインポート・レコードを保持できます。レコードに関する 1,000,000 個の制限は、各インポートでの制限ではなく、そのクライアント ID での総数の制限です。

1 次キーの選択

1 次キーは、属性のインポートを行う対象のデータ・フィールドまたはデータ・オブジェクトです。

1 次キーの選択は、2 つのステップで行われます。まず最初に左のリストからデータ・オブジェクトを選択し、次に右のリストから 1 次キーを選択します。2 番目のリストの値は、選択したデータ・オブジェク

トに応じて異なります。データ・オブジェクトを変更した場合は、1次キー・リストの値が変更されます。複数のインポート・テンプレートに同じ1次キーを選択することはできません。

表 1: 選択可能な 1 次キー	
基本データ・オブジェクトのオプション	サポートされるデータ・フィールド・キー
ページ	ページ
	コンテンツ・カテゴリー ID (最下位のみ)
	コンテンツ・カテゴリー
	ページ属性 1-50 (タグのみ)
プロダクト	プロダクト ID
	プロダクト名
	プロダクト・カテゴリー ID (最下位のみ)
	プロダクト・カテゴリー
	プロダクト属性 1-50 (タグのみ)
コンバージョン・イベント	イベント名
	イベント・カテゴリー
	イベント属性 1-50 (タグのみ)
エレメント	エレメント名
	エレメント・カテゴリー
	エレメント属性 1-50 (タグのみ)
ショップ	ショップ属性 1-50
注文	注文 ID
	注文属性 1-50 (タグのみ)
マーケティング	ベンダー
	ベンダー/カテゴリー
	ベンダー/カテゴリー/プレースメント
	ベンダー/カテゴリー/プレースメント/アイテム
	マーケティング属性 1-50 (タグのみ)
登録	登録 ID
	E メール・アドレス
	訪問者 ID
	登録属性 1-50 (タグのみ)
テクニカル・プロパティ	ブラウザの種類
	画面解像度
	モバイル・デバイス
検索用語	サイト内検索用語
	自然検索用語
参照元サイト・ドメイン	参照元サイト

表 1: 選択可能な 1 次キー (続く)	
基本データ・オブジェクトのオプション	サポートされるデータ・フィールド・キー
地域	市区町村
	都道府県
	国

カテゴリ ID を 1 次キーとして使用する場合は、すべてのフィールドのデータ値がカテゴリ階層の最下位に関連付けられます。

属性フィールド

テンプレートにインポートする属性フィールドを選択します。1 次キーが自動的に「表示する項目 (左のボックスから移動)」列に表示されます。これを削除することはできません。(1 次キーを変更すると、選択した属性フィールドはクリアされます。)

ファイルに組み込むフィールドを追加するには、それらのフィールドを、「使用できる属性フィールド」列から「表示する項目 (左のボックスから移動)」列にドラッグします。「表示する項目 (左のボックスから移動)」列内の指標の順序は、必ずインポート・ファイルで使用する指標の順序に一致させてください。

予測指標の構成

予測指標は、重要業績評価指標 (KPI) ターゲットに対応する毎日の指標値をインポートするために構成します。

インポートするフィールドと、フィールドの順序を指定する必要があります。「日付 ID」が、ファイル内の最初のフィールドでなければなりません。「使用できる予測指標」フィールドに、その他のサポートされる指標が含まれています。

予測指標のインポート・ソリューションは、Digital Analytics トップ・ライン指標レポートに組み込まれているほとんどの指標をサポートしています。サポートされていない指標は、サーバー呼び出しと時間ベースの指標 (1 ページあたりの平均時間、平均訪問時間、新規訪問の平均時間、およびリピート訪問の平均時間) です。トップ・ライン指標レポートでは表示されないがアクション・レポート (ARR) の予測モジュールでは使用できる数個の指標を、組み込むこともできます。

サポートされる指標は、一部を選択することも、すべてを選択することもできます。

表 2: 使用できる予測指標				
指標	小売	コンテンツ	トラベル	金融サービス
放棄ショッピング・カート・アイテム数	X			
放棄ショッピング・カート	X			
放棄アプリケーション数				X
アプリケーションの放棄率				X
注文金額の平均	X			
平均予約金額			X	
平均送料 + 手数料	X			
予約数			X	
予約者/訪問者			X	
予約数/訪問者			X	
予約数/訪問			X	
予約放棄率			X	

表 2: 使用できる予測指標 (続く)

指標	小売	コンテンツ	トラベル	金融サービス
直帰率	X	X	X	X
購入者/訪問者	X			
申込者/訪問者				X
アプリケーション数/訪問者				X
アプリケーション数/訪問				X
購入訪問回数	X			
エレメント・ビュー	X	X	X	X
エレメント・ビュー/合計訪問回数	X	X	X	X
イベント・ポイント	X	X	X	X
イベント・ポイント/合計訪問回数	X	X	X	X
イベント・ポイント/合計訪問者数	X	X	X	X
イベント数	X	X	X	X
イベント数/合計訪問回数	X	X	X	X
イベント/合計訪問者数	X	X	X	X
開始アプリケーション数	X			X
アイテムの放棄率	X			
ショッピング・カートのアイテム数	X			
注文アイテム数	X			
アイテム数/注文	X			
新規購入者/新規訪問者	X			
新規購入者数	X			
新規申込者/新規訪問者				X
新規申込者数				X
新規ニュースレター購読者数	X	X	X	X
新規訪問者数 (%)	X	X	X	X
新規訪問者数	X	X	X	X
新規予約者数			X	
新規予約者/新規訪問者			X	
サイト内検索数	X	X	X	X
注文/訪問者	X			
注文ショッピング・カート・アイテム数	X			
注文ショッピング・カート	X			
注文数	X			
注文数/訪問	X			

表 2: 使用できる予測指標 (続く)

指標	小売	コンテンツ	トラベル	金融サービス
ページ・ビュー/訪問	X			
プロダクト・ビュー	X			
リピート購入者/リピート訪問者	X			
リピート購入者数	X			
リピート訪問者数	X	X	X	X
リピート申込者/リピート訪問者数				X
リピート申込者数				X
予約宿泊日数			X	
リピート予約者/リピート訪問者			X	
リピート予約者数			X	
収入			X	
売上	X			
訪問コンバージョン率	X			
送料 + 手数料	X			
ショッピング・カート放棄率	X			
サブミット・アプリケーション数				X
合計ページ・ビュー	X	X	X	X
合計訪問数	X	X		X
合計ショッピング・カート数	X		X	
合計完了アプリケーション数				X
米国の訪問回数 (%)	X	X	X	X
ユニーク購入者数	X			
ユニーク訪問者数	X	X	X	X
ユニーク申込者数				X
ユニーク予約者数			X	

訪問者登録フィールドの構成

訪問者登録フィールドのインポート・ファイルは、登録されたユーザーに関するデータをインポートするために使用します。インポート・ファイルには、「日付 ID」と「登録 ID」という 2 つの主要な列が含まれている必要があります。ファイル内の他の列は、サポートされた指標のリストから選択します。

「日付 ID」はファイルの最初の列でなければならず、「登録 ID」は 2 番目の列でなければなりません。どちらのフィールドもインポート構成から削除することはできません。サポートされる指標は、一部を選択することも、すべてを選択することもできます。

インポート・ファイルは、ユーザーがここで指定するものと同じフィールド順序を使用する必要があります。「表示する項目 (左のボックスから移動)」列内の指標の順序は、必ずインポート・ファイルで使用する指標の順序に一致させてください。

フィールド
日付 ID
登録 ID
年齢
E メール・アドレス
性別
登録されている市区町村
登録されている都道府県
登録されている国
登録されている郵便番号
学歴
収入の最低レベル
収入の最高レベル
インポートした登録属性 1
...
インポートした登録属性 50

インポート・ファイルの作成

インポート・ファイルは、IBM Digital Analytics Import の外部で作成されるデータ・ファイルです。これらのファイルでは、名前、構造、およびコンテンツに対して要件があります。これらの要件は、インポート・ソリューションのタイプによって異なったり、インポート・ソリューションのタイプにかかわらず同じであったりします。要件を満たさないファイルは、正常にインポートできません。

インポート・ファイル構成ごとに、決まったフィールド・リストがあります。必ず、すべてのフィールドを組み込み、所定の列順序を守ってください。データ・フィールドの列順序が仕様に一致しない場合、ファイルをロードできません。

インポート・ソリューション・テンプレートには、正しいフィールド名、正しいファイル区切り文字、およびサポートされるファイル名が含まれています。テンプレート・ファイルにデータを追加するときは、インポート・ソリューションのタイプの構成から外れるような方法で、ファイルを変更しないでください。

インポートするファイルのサイズには制限があります。Import のユーザー・インターフェースからインポートするファイルは、10 MB 未満である必要があります。SFTP 経由で Digital Analytics に送信するファイルは、100 MB 未満である必要があります。

ファイルのテキストは、ASCII または UTF-8 とする必要があります。

構成テンプレートのダウンロード

テンプレートをダウンロードして、ファイルの作成時に必要な構成に従うために役立てることができます。

このタスクについて

マルチチャネルのインポート・ソリューションと、エンタープライズ・プロダクト・レポートのインポート・ソリューションには、それぞれインポート・ファイルが 2 個ずつあります。これらのインポートの種類それぞれに対応する、ダウンロードされたテンプレート・ファイルは、インポート・ファイルごとの別個の Excel CSV ファイルが含まれる圧縮ファイルです。

手順

1. サイド・ナビゲーション枠で「**Import**」をクリックします。
2. インポート・ソリューションの種類を選択します。
3. 「**データ拡張**」を選択した場合は、具体的なデータ拡張タイプを選択します。
4. 「**テンプレート・ファイルをダウンロード**」をクリックします。

正しいファイル名の形式

インポートするファイルは、厳密なファイルの命名規則に従っている必要があります。Import は、ファイルの命名規則により、送信するデータのタイプと、適用されるインポート・ソリューションを判断できません。

すべてのインポート・ファイル名は、以下の 4 つの部分からなります。

- インポート・ソリューションのプレフィックス。
送信するファイルのインポート・ソリューションの種類を識別するファイル名プレフィックス。後に示す有効なファイル名プレフィックスのリストを参照してください。
- 数値のクライアント ID。
割り当てられた固有のサイト数値 ID。これは、Import への認証時に指定する 8 桁の数字と同じです。
- ユーザー定義のインポート・ファイル名、または 1 次キー。
データ拡張ファイルの場合、この名前は 1 次結合キーであるデータ・フィールドの名前です。その他のインポート・ソリューションの種類の場合は、インポート・ファイルを区別するために使用する任意の名前です。
- ファイル拡張子 CSV。
ファイル名には、常に CSV という拡張子が付けられている必要があります。そうでない場合、ファイルは無効として拒否されます。分離文字として必ずコンマを使用する必要はありませんが、ファイル拡張子として CSV は使用する必要があります。Microsoft Excel でファイルを作成または編集できますが、デフォルトの Excel ファイル拡張子を使用しないようにしてください。

有効なファイル名プレフィックス

CDF

カテゴリ定義ファイル

DE

データ拡張

ECDF

エンタープライズ・カテゴリ定義ファイル

EPCMF

エンタープライズ・プロダクト・コンテンツ・マッピング・ファイル

CIF

予測指標

REG

訪問者登録フィールド

MCS

マルチチャネル購入

MCO

マルチチャネル注文

マルチチャネルのインポート・ファイル

マルチチャネルのインポート構成は、個別のアイテムまたは注文のオフライン・トランザクション・データをインポートするために使用します。

マルチチャネルのインポート・ファイルには、2 つのタイプがあります。

- マルチチャネルでの購入 (MCS)

このファイルは、個々のアイテムのオフライン・トランザクション・データをインポートする場合に使用します。このファイルのデータは、Web サイトで Digital Analytics ショップ・タグによって収集されるデータとマージされます。マルチチャネル・ソリューションを使用する場合には、マルチチャネル購入インポート・ファイルが必要です。

- マルチチャネルでの注文 (MCO)

このファイルは、注文のオフライン・トランザクション・データをインポートする場合に使用します。このファイルのデータは、Web サイトで Digital Analytics 注文タグによって収集されるデータとマージされます。このファイルは、オプションです。

注：インポートされたレコードの固有性は、次のフィールドの値の組み合わせで決定されます。

- 登録 ID (MCS のみ)
- 注文 ID
- トランザクション ID
- プロダクト名 (MCS のみ)

インポートされたレコード内のレコードの固有性を定義するフィールドのいずれかに無効な値がある場合は、その無効なレコードを削除するまで、修正されたレコードをインポートできません。「OverwriteFlag」フィールドは、レコードを上書きするためには使用できません。「OverwriteFlag」フィールドは、レコードの固有性を定義するためには使用されないデータ・フィールドの値しか修正できません。レコードの削除を要求するには、Digital Analytics サポートに連絡してください。

マルチチャネルでの購入のフィールド

Digital Analytics にインポートされる各マルチチャネルでの購入 (MCS) ファイルには、同じ一連のフィールドが含まれている必要があります。すべてのフィールドをインポートする必要がありますが、一部のフィールドは空のままでも構いません。

以下の表では、マルチチャネルでの購入 (MCS) ファイルのフィールドをリストします。データ値が必要なものは、表の「必須データ」欄に「Y」が示されているフィールドのみです。ヌルのフィールドを表すために、デフォルト値を入力する必要はありません。そうしたフィールドは空のままにして構いません。

名前	説明	長さ	形式	必須データ
Date_ID	オフライン・トランザクションの発生時の日付。Date_ID は、常に YYYYMMDD 形式の 8 桁の数値文字列です。	8	string	Y
上書きフラグ	該当ファイル・レコードで既存のレコード・フィールドを置き換えるかどうかを示すための yes/no を表すコード (Y または N)。このフィールドが空の場合、N の値が想定されます。	1	string	N
登録 ID	固有の顧客 ID。この値を他のフィールドの値と組み合わせて使用して、レコードの固有性を決定します。	256	string	Y
注文 ID	固有の注文 ID。この値を他のフィールドの値と組み合わせて使用して、レコードの固有性を決定します。	256	string	Y

表 4: マルチチャンネルでの購入のフィールド (続く)

名前	説明	長さ	形式	必須データ
トランザクション ID	固有のトランザクション ID。この値を他のフィールドの値と組み合わせて使用して、レコードの固有性を決定します。	256	string	Y
トランザクション・タイプ	インポート対象のトランザクションのタイプを識別する番号/コード。この値は将来の使用に備えたものです。有効な値は 1 (購入) のみです。	256	number	Y
プロダクト ID	固有のプロダクト ID。	256	string	Y
プロダクト名	プロダクトの名前。この値を他のフィールドの値と組み合わせて使用して、レコードの固有性を決定します。	256	string	Y
プロダクト・カテゴリー	より大記号 (>) で区切られる、階層型プロダクト・カテゴリー。例えば、「 Womens 」 > 「 Shoes 」 > 「 Nike 」 などです。		string	Y
基本価格	このプロダクトの販売価格。形式は、小数点文字を 1 つ含む数値です。コンマや通貨記号は使用しないでください。インポート用のレコードの CID で表される通貨の値として想定されます。例えば、 \$123,456.78 ではなく、 123456.78 を使用します。	16.2	double	Y
数量	販売アイテムの数量	8	number	Y
online_attribute_1	この属性フィールドは、特にプロダクト ID 値に結合されます。プロダクト ID 値はマルチチャンネル・インポート・ファイルの行ごとに必要です。 オンライン属性 1 から 50 は、Digital Analytics ショップ・タグによって収集される属性フィールドにマップされます。これらの属性は、オンラインとオフラインのデータ・レポートをマージする場合に使用します。	100	string	N
...		100	string	N
online_attribute_50		100	string	N
Offline_attribute_1	オフライン属性 1 から 50 は、オンライン・ショッピングに適用されない属性用 (例えば、ストア ID など) です。	4000	string	N
...		4000	string	N

表 4: マルチチャンネルでの購入のフィールド (続く)

名前	説明	長さ	形式	必須データ
Offline_attribute_50		4000	string	N

マルチチャンネルでの注文のフィールド

Digital Analytics にインポートされる各マルチチャンネルでの注文 (MCO) ファイルには、同じ一連のフィールドが含まれている必要があります。すべてのフィールドをインポートする必要がありますが、一部のフィールドは空のままでも構いません。

以下の表では、マルチチャンネルでの注文 (MCO) ファイルのフィールドをリストします。データ値が必要なものは、表の「必須データ」欄に「Y」が示されているフィールドのみです。ヌルのフィールドを表すためにデフォルト値を入力する必要はありません。そうしたフィールドは空のままにして構いません。

表 5: マルチチャンネルでの注文のフィールド

名前	説明	長さ	形式	必須データ
Date_ID	オフライン・トランザクションの発生時の日付。Date_ID は、常に YYYYMMDD 形式の 8 桁の数値文字列です。	8	string	Y
上書きフラグ	該当ファイル・レコードで既存のレコード・フィールドを置き換えるかどうかを示すための yes/no を表すコード (Y または N)。このフィールドが空の場合、N の値が想定されます。	1	string	N
登録 ID	固有の顧客 ID。	256	string	Y
注文 ID	固有の注文 ID。この値をトランザクション ID の値と組み合わせて使用して、レコードの固有性を決定します。	256	string	Y
トランザクション ID	固有のトランザクション ID。この値を注文 ID の値と組み合わせて使用して、レコードの固有性を決定します。	256	string	Y
トランザクション・タイプ	インポート対象のトランザクションのタイプを識別する番号/コード。このフィールドは将来の使用のために用意されています。有効な値は 1 (購入) のみです。	256	number	Y

表 5: マルチチャンネルでの注文のフィールド (続く)

名前	説明	長さ	形式	必須データ
合計価格	このトランザクションにおけるこの製品の合計価格。送料と手数料は、「配送」フィールドで別個に追跡されるため、含めないでください。 形式は、小数点文字を 1 つ含む数値です。コンマや通貨記号は使用しないでください。インポート用のレコードの CID で表される通貨の値として想定されます。例えば、 \$123,456.78 ではなく、 123456.78 を使用します。	16.2	double	Y
配送	注文に関連付けられた送料と手数料の費用。 形式は、小数点文字を 1 つ含む数値です。コンマや通貨記号は使用しないでください。インポート用のレコードの CID で表される通貨の値として想定されます。	16.2	number	N
online_attribute_1	属性フィールドは、特に注文 ID 値に結合されます。注文 ID 値はマルチチャンネル・インポート・ファイルの行ごとに必要です。 オンライン属性 1 から 50 は、サイトで Digital Analytics 注文タグによって収集される属性フィールドにマップされます。これらの属性は、オンラインとオフラインのデータ・レポートをマージする場合に使用します。	100	string	N
...		100	string	N
online_attribute_50		100	string	N
Offline_attribute_1	オフライン属性 1 から 50 は、オンライン注文に適用されない属性用 (例えば、ストア ID など) です。	4000	string	N
...		4000	string	N
Offline_attribute_50		4000	string	N

訪問者登録フィールドのインポート・ファイル

インポートされたデータとオンライン・データが競合しないように、日付、ヌル値、および登録 ID にはガイドラインがあります。また、フィールド・サイズと複数の値の引き渡しにもガイドラインがあります。

「日付 ID」は、yyyymmdd という形式 (例: 20121025) でフォーマット設定されていなければなりません。翌日の日付を「日付 ID」の値として使用します。

インポートされた登録データのタイム・スタンプは、指定された日付の午前 12 時になります。インポートされたデータはオンライン・データの後に処理されます。その登録 ID の既に処理されたデータより前のタ

タイム・スタンプのレコードはスキップされます。翌日の日付を使用すると、インポートされた登録データのタイム・スタンプは、確実にオンライン・データよりも後になります。

オンライン・タグからのデータを入れる必要のある登録フィールドには、ヌル値を使用します。ヌル値によって、ヌル以外の値が置き換えられることはありません。

登録 ID は、個々の登録済みの顧客を識別するために、Digital Analytics タグで渡される固有の文字列に一致していなければなりません。

インポートされる訪問者登録属性値ごとの最大フィールド・サイズは 100 文字です。100 文字の制限内であれば、単一属性に複数の値を指定してロードできます。例えば、1つのプロダクト・ビューに対して複数の色を取り込むことができます。色属性の値として、Red|Green|Blue を渡すことができます。

予測指標のインポート・ファイル

予測指標のインポート・ファイルには、予測インポート構成でリストされているフィールドが含まれていなければなりません。ファイル内のフィールドの順序は、構成と一致している必要があります。

「日付 ID」フィールドは、yyyymmdd 形式 (例えば、20121025) でなければなりません。

予測指標は、日次の細分度でのみインポートできます。

未来と過去の両方の日付の予測データを組み込むことができます。未来の日付の予測値は、その日になるまではトップ・ライン指標レポートに表示されません。

エンタープライズ・プロダクト・レポートのインポート・ファイル

エンタープライズ・プロダクト・レポートのインポートは、EPCMF ファイルおよび ECDF ファイルという 2つのインポート・ファイルから構成されます。

このタスクについて

EPCMF ファイルには、以下のフィールドがこの順序で含まれていなければなりません。

- 日付 ID
- クライアント ID
- プロダクト ID
- プロダクト名
- カテゴリー ID
- Extra_Field_1 から Extra_Field_50 まで

ECDF ファイルには、以下のフィールドがこの順序で含まれていなければなりません。

- 日付 ID
- クライアント ID
- カテゴリー ID
- カテゴリー名
- 親カテゴリー ID

以下では、ファイルの検証に失敗する原因となる、エンタープライズ・プロダクト・レポートのインポート・ファイル内でよくある誤りをいくつか示します。

無効な区切り文字

ECDF または EPCMF インポート・ファイルで、EPR インポート構成で指定された区切り文字とは異なる区切り文字が使用されています。例えば、ECDF インポート・ソリューション用にコンマ (,) を区切り記号として選択したが、パイプ (縦棒 |) 文字を区切り文字として使用するファイルをインポートした場合です。

ルートが見つからない

ECDF または EPCMF インポート・ファイルに、ルート・カテゴリーが 1 つもありません。例えば、親カテゴリーがないか、または親カテゴリーが空です。

無効なクライアント

ECDF または EPCMF インポート・ファイルのファイル名に、無効なクライアント ID 値が使用されています。

ルーズな (つまりエスケープされていない) 文字

ECDF または EPCMF の各インポート・ファイルでは、二重引用符 (") がテキスト修飾子として正しく使用されません。

カテゴリの重複

ECDF または EPCMF インポート・ファイルに、同じカテゴリと親カテゴリ ID を持つ 2 つの行が含まれています。

循環参照が見つかった

あるレコードの親カテゴリが別のレコード内の同じカテゴリの子カテゴリとなっています。

カテゴリが見つからない

親カテゴリとして定義されているカテゴリが、カテゴリとして定義されていません。

無効な日付 ID

行の日付 ID が無効です (yyyymmdd という形式ではありません)。

列の数が不十分

ECDF ファイルで、1 行のデータの列が、4 列よりも少なくなっています。各行には、日付 ID、クライアント ID、カテゴリ ID、およびカテゴリ名が必要です。

クロスチェック検証

ECDF ファイルと EPCMF ファイルの両方をアップロードする場合、バリデーターは、EPCMF ファイル内にある各カテゴリ ID が ECDF ファイル内にもあるかどうかを調べます。Digital Analytics バリデーターで許容数を超える EPR クロスエラーが検出されると、それらのファイルは拒否されます。

データ拡張のインポート・ファイル

データ拡張ファイルには、この 1 次キーのデータ拡張インポート構成にリストされたフィールドが含まれている必要があります。ファイル内のフィールドの順序は、構成と一致している必要があります。

データ拡張のインポート・ファイルには、この 1 次キーで使用したいデータ拡張レコードがすべて含まれていなければなりません。以前にインポートしたすべてのレコードも含める必要があります。データ拡張のファイルをインポートすると、以前に同じテンプレートを使用してインポートしたデータはすべて削除されます。以前に同じテンプレートを使用してインポートされたデータは削除され、最新のデータで置換されます。

次の 1 次キーには、階層の値が含まれます。

- コンテンツ・カテゴリ
- プロダクト・カテゴリ
- エレメント・カテゴリ
- ベンダー/カテゴリ
- ベンダー/カテゴリ/プレースメント
- ベンダー/カテゴリ/プレースメント/アイテム

異なるレベルの値を区切るには、「>」(スペース文字 + より大記号 + スペース文字) を使用してください。例えば、製品カテゴリの「家具 > 机」という値は、2 つのレベルのカテゴリ階層を表します。「Yahoo > E メール > 販売担当者」は、ベンダー/カテゴリ/プレースメントのキーの正しい形式の値です。「>」を使用しない値は、階層の最上位に割り当てられます。

注: Import が、インポートされたデータをデータベース内のデータと突き合わせるとき、大/小文字は無視されます。例えば、インポート・ファイルの 1 次キーが **Country** で、そのインポート・ファイルの行に 1 次キー・フィールドの値として **GeRmAnY**、かつ属性値の 1 つとして **EMEA** がある場合、データベース内のレコードのうち国の値が **germany** (大/小文字は問わない) のレコードには、すべて **EMEA** が属性として含まれています。

以下では、ファイルの検証に失敗する原因となる、データ拡張ファイル内でよくある誤りをいくつか示します。

重複レコード

複数の行に同一の 1 次キー値があります。E メール通知には、失敗したレコード数が示されます。

保存済みインポート構成の不一致

インポート・ファイルが、保存したインポート構成と一致していません。

無効なインポート・ファイル名

Import ユーザー・インターフェースでも、手動の SFTP プロセスでも、ファイル名が無効なファイルをアップロードすることはできません。

テンプレートのフィールド数とインポート・ファイルのフィールド数が一致しない

インポート・ファイルのフィールド数は、実際のインポート・ファイルのフィールド数と一致する必要があります。

属性文字の長さ制限の超過

単一の非キー・フィールドの値が 256 文字を超えています。そのフィールドを含む行はスキップされます。ファイルの残りの部分はインポートされます。

キー・フィールド文字の長さ制限の超過

キー・フィールドの値が 4096 文字を超えています。そのフィールドを含む行はスキップされます。ファイルの残りの部分はインポートされます。

カテゴリ定義ファイルのインポート・ファイル

カテゴリ定義ファイルを作成するときは、正常な検証のために、そのファイルに必須フィールドが含まれている必要があります。

カテゴリ定義ファイルのインポート・ファイルには、以下のフィールドが含まれていなければなりません。

- クライアント ID
- カテゴリ ID
- カテゴリ名
- 親カテゴリ ID

以下では、ファイルまたはレコードの検証に失敗する原因となる、カテゴリ定義ファイルのインポート・ファイル内でよくある誤りをいくつか示します。

無効な区切り文字

CDF インポート構成の区切り文字とは異なる区切り文字がファイルで使用されています。例えば、CDF インポート構成用にコンマ (,) を区切り記号として選択してから、パイプ (縦棒 |) 文字を区切り文字として使用するファイルをインポートする場合があります。

ルートが見つからない

CDF インポート・ファイルに、ルート・カテゴリが 1 つもありません。例えば、親カテゴリがないか、または親カテゴリが空です。

無効なクライアント

CDF インポート・ファイルのファイル名に、無効なクライアント ID 値が使用されています。

ルーズな (つまりエスケープされていない) 文字

CDF インポート・ファイルでは、二重引用符 (") はテキスト修飾子として認識されません。

カテゴリの重複

CDF インポート・ファイルに、同じカテゴリと親カテゴリ ID を持つ 2 つの行が含まれています。

循環参照が見つかった

あるレコードの親カテゴリが別のレコード内の同じカテゴリの子カテゴリとなっています。

カテゴリが見つからない

親カテゴリとして使用されているカテゴリが、カテゴリとして定義されていません。

列の数が不十分

CDF ファイルで、1 行のデータの列が、3 列よりも少なくなっています。各行には、クライアント ID、カテゴリ ID、およびカテゴリ名が必要です。

データ・ファイルのインポート

手順

1. サイド・ナビゲーション枠で「**Import**」をクリックします。
2. 使用するインポート構成を選択します。
3. インポートするファイルを指定します。

タスクの結果

ファイルがアップロードされると、ポップアップ・ウィンドウによって通知されます。データがインポートされたとき、またはインポートが失敗したときは、**Import** から E メールが送信されます。デフォルトでは、インポートしたユーザーと管理者ユーザー・グループ内のすべてのユーザーに、この E メールが送信されます。インポート時に、アラートを受信する E メール・アドレスをさらに指定することもできます。

処理時間と通知

すべてのファイルに対して、まずは検証プロセスが実行されます。このプロセスの長さは、ファイルのサイズに比例しますが、処理キュー内のファイルの数によっても影響されます。

ECDF ファイルと EPCMF ファイルを検証する際には、両方のファイルが存在している必要があります。システムは、2 番目のファイルが到着する時間を考慮して、それらのどちらのファイル・タイプを検証する前でも、最大 15 分待機します。

E メールは、この検証プロセスが正常に完了した後に送られます。

検証が成功すると、データがロードされます。データは通常数時間のうちにロードされますが、ご使用の構成とインポートの種類によってロード時間は異なります。

データ拡張インポートでの注意

ユーザーは、クライアント ID ごとに最大 10 個のデータ拡張テンプレートで使用するデータ拡張構成を、具体的に選択します。そのため、検証に使用する構成は指定する必要があります。誤ったテンプレートを選択すると、検証は失敗します。

注：

データ拡張のファイルをインポートすると、以前に同じテンプレートを使用してインポートしたデータはすべて削除されます。以前に同じテンプレートを使用してインポートされたデータは削除され、最新のデータで置換されます。

エンタープライズ・プロダクト・レポート・インポートおよびマルチチャネル・インポートでの注意

エンタープライズ・プロダクト・レポート・インポートとマルチチャネル・インポートはそれぞれ、1 つまたは 2 つの別個のインポート・ファイルで構成されます。

インポートするファイルを指定するためのフィールドが 2 つ表示されます。ファイルをアップロードするときに、そのフィールドで正しいファイルを選択してください。

Import の管理

Import を使用すると、SFTP アカウントとテンプレートを管理し、「管理」メニュー内で過去のインポートを確認することができます。

SFTP アカウントの管理

Digital Analytics は、標準サービスでの Import のプロビジョニングの一環として、クライアント ID ごとにインポート SFTP アカウントを自動的に作成します。

このユーザー名は変更できません。ユーザー名は、ご使用のクライアント ID-import (例: 10000001-import) となります。

ユーザーには初期パスワードが提供されますが、このパスワードは変更できます。パスワードを再設定するには、「管理」>「**SFTP アカウント (SFTP Account)**」をクリックし、「リセット」をクリックしてそのページの編集可能フィールドを使用可能にし、パスワードを編集してから「保存」をクリックします。

注: インポート・アカウント・パスワードを再設定できるのは、Digital Analytics の管理者ユーザー・グループのメンバーであるユーザー・アカウントのみです。

「**SFTP アカウント (SFTP Account)**」ページで表示されるテキスト・ボックスに E メール・アドレスを入力すると、パスワードまたはファイル転送オプションを編集したときに、それらの E メール・アドレスに通知が送られます。セキュリティ上の理由により、指定した新規パスワードは、送信される E メール通知には記載されません。

過去のインポートの表示

「インポート・アーカイブ」ページで、インポート・ソリューションの種類ごとに最近のインポート・ジョブを表示できます。アーカイブ・リストには、インポート・ソリューションの種類ごとに最大 10 個のインポート・ジョブが含まれています。

ファイルは 30 日間アーカイブ・リスト内にとどまります。ただし、そのインポート・ソリューションの種類またはデータ拡張 1 次キーに対応する最後のファイルである場合を除きます。種類ごとの最後のファイルは、その種類の別のファイルをインポートするまで、リストに残ります。

アーカイブ・リストは、ソリューションの種類ごとに編成されます。各インポート・ソリューション・セクションを展開または縮小して、それぞれのインポート・ジョブを表示または非表示にすることができます。各インポート・ジョブは、ファイル名、インポートが処理された日付、ファイルをインポートしたユーザー、ジョブの状況 (正常か失敗か) を表示します。データ拡張インポートの場合は、インポートされたレコードの数も表示されます。

注: Import を使用せずに Digital Analytics にファイルを転送した場合、そのインポートの「作成者」フィールドには「**SFTP ユーザー (SFTP User)**」と表示されます。

過去の 10 個のインポート・ソリューション・ジョブのどれについても、指定のジョブに関連付けられた E メール通知を再送できます。再送するインポート・ジョブの横にあるチェック・ボックスを選択し、ページの右上の「再送」をクリックしてください。

データ拡張のインポート・ファイルがそのテンプレートで最新のインポートである場合は、その行の右端の列に「**ファイルのダウンロード**」アイコンがあります。このリストでは、10 個のデータ拡張インポート・ジョブに制限されているため、一部のデータ拡張テンプレートしかリストに表示されない可能性があります。

サイド・ナビゲーション枠で「管理」>「インポート・アーカイブ」をクリックして、「インポート・アーカイブ」ページを開きます。

テンプレートの管理

「テンプレートの管理」ページで、クライアント ID のすべてのインポート・テンプレートのリストを表示できます。

サイド・ナビゲーション枠で「管理」>「テンプレート」をクリックして、「テンプレートの管理」ページを表示します。

追加の連絡先情報

製品改良のための推奨情報については、IBM (cm_feedback@us.ibm.com) にご連絡ください。

製品に関して支援が必要な場合は、IBM Client Support Center (<https://support.ibmcloud.com>) にご連絡ください。

また、お客様の地域の IBM 営業所にご連絡いただくこともできます。

米国	
IBM 1001 E Hillsdale Boulevard Foster City, CA 94402 フリー・ダイヤル: 1.866.493.2673	IBM Austin 11501 Burnet Road Building 905, Floor 2 Austin, TX 78758-3400 フリー・ダイヤル: 1.866.493.2673
IBM Dallas 750 W John Carpenter Freeway Irving, TX 75039 フリー・ダイヤル: 1.866.493.2673	
ヨーロッパ	
IBM United Kingdom Limited 3 Furzeground Way Stockley Park Uxbridge Middlesex UB11 1EZ U.K. 電話: 020 8867 8003	IBM GmbH Beim Strohhause 17 D-20097 Hamburg Germany 電話: 0800-180-2597
IBM France 17 Avenue de l'Europe 92275 Bois Colombes Cedex France 電話: 0800 91 4912	
アジア太平洋	
IBM Hong Kong Limited Silvercord Tower 2 Room 907 30, Canton Road Tsim Sha Tsui Kowloon Hong Kong SAR, China 電話: +852 8201 0823 Fax: +852 8201 0832	IBM Australia and New Zealand 60 Southgate Ave Southgate VIC 3006 AUSTRALIA (オーストラリア) 1800 69 CORE (ニュージーランド) 0800 69 CORE

IBM お客様のご意見をお寄せください。

ご意見は以下の住所にお送りいただくことができます。

IBM Bay Area Lab
1001 E Hillsdale Boulevard
Foster City, California 94404
USA

以下のいずれかの方法で電子的にご意見をお送りいただくこともできます。

フリー・ダイヤル

1+866-493-2673

サポート・センター:

<https://support.ibmcloud.com>

ワールド・ワイド・ウェブ:

www.ibm.com/marketing-solutions/

ご意見またはコメントには以下の情報を必ず記載してください。

- 本資料のタイトル
- コメントに関連するページ番号またはトピック

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

サポート

サポート・センター

サポート・サイトにアクセスするには、<https://support.ibmcloud.com> に移動するか、アプリケーションのメニュー・バーの「サポート」リンクをクリックします。

サポート・センターのサイトには、以下に示すものが含まれています。

- **検索可能な知識ベース。** 質問に対する回答を得たり、基本的な資料 (実装ガイド、指標用語集、ユーザー・ガイド、リリース・ノートなど) に簡単にアクセスすることができます。
- **研修ツール。** Web ベースのトレーニングやアーカイブ済みのオンライン・セミナーなど。
- **マーケティング情報。** ケース・スタディー、ホワイト・ペーパー、および今後のイベント (クライアント・サミットなど) が含まれています。
- **通知。** サポートからの通知です。
- **問題のトラッキング。** チケットの作成からその問題の解決までを追跡し、お客様のお問い合わせ状況を詳細に把握できるようにします。
- **フィードバック。** これにより、サポート・サイトの改善に関する意見を提案できます。(アプリケーションに関するフィードバックを cm_feedback@us.ibm.com までお寄せください。)
- **チャット。** これにより、ベスト・プラクティス担当者と即時に対話できます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害するこ

とのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス 渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing IBM Corporation

North Castle Drive, MD-NC119

Armonk, NY 10504-1785 US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。

これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. 2017 . All rights reserved.

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』（<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。

